

うみっこ通信

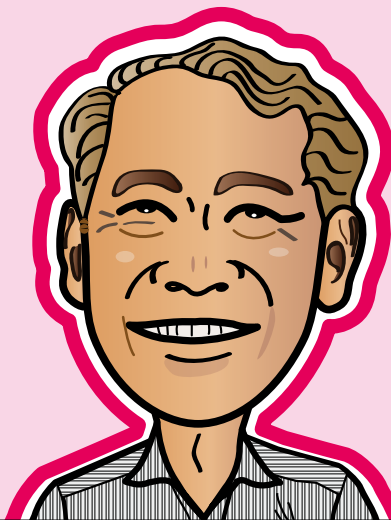


滋賀県立
琵琶湖博物館

LAKE BIWA MUSEUM



教えてください



たかはしけいいち
高橋啓一 学芸員



琵琶湖にゾウがいたの?



アケボノゾウ

琵琶湖のまわりにはいたゾウ化石について

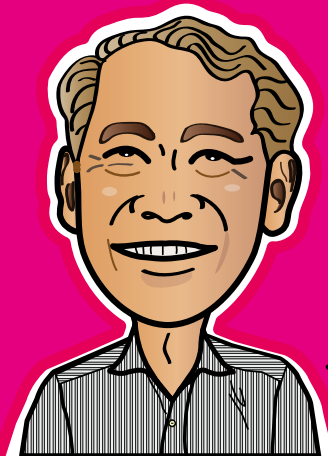
2012.7
No.8

琵琶湖は400年以上の歴史があります。この長い時間の中で琵琶湖の中や、そのまわりの陸上にいた動物たちもうつり変わってきました。ゾウの化石もそのひとつです。今では琵琶湖のまわりにゾウがいたなんて想像もつきませんが、大昔にはたくさんいました。そんな化石を研究している高橋啓一学芸員に「びわこのまわりにはいたゾウたち」と博物館の「びわ湖のおいたち展示室」のゾウ化石について紹介してもらいます。

また、今年度の企画展示「ニゴローの大冒険～7十から見た田んぼの生き物のにぎわい～」を紹介します。

目次

- 1 今回の特集
- 2 琵琶湖のまわりにはいたゾウたち
- 3 びわ湖のおいたち展示室のゾウ展示について
- 4 うみっこトピックス「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」



ゾウの化石
を見たことあり
ますか？

【研究紹介】

琵琶湖のまわりには

ゾウたち

琵琶湖のまわりから化石はでるの？

現在の琵琶湖のまわりには、太古の琵琶湖やその周辺の湿地などに堆積した泥や砂の地層があり、その中から貝や魚をはじめ陸上にいた動物や植物の化石が発見されます。

ゾウの化石も発見されていると聞いたけど？

琵琶湖のまわりからは、これまでミエゾウ、アケボノゾウ、シガゾウ、トウヨウゾウ、ナウマンゾウと5種類のゾウ化石が発見されています（写真1）。ひとつの地域でこんなにたくさんの種類のゾウが発見されるのはめずらしいことです。



【写真1】ミエゾウの歯の化石

どうしてたくさんの種類が発見されるの？

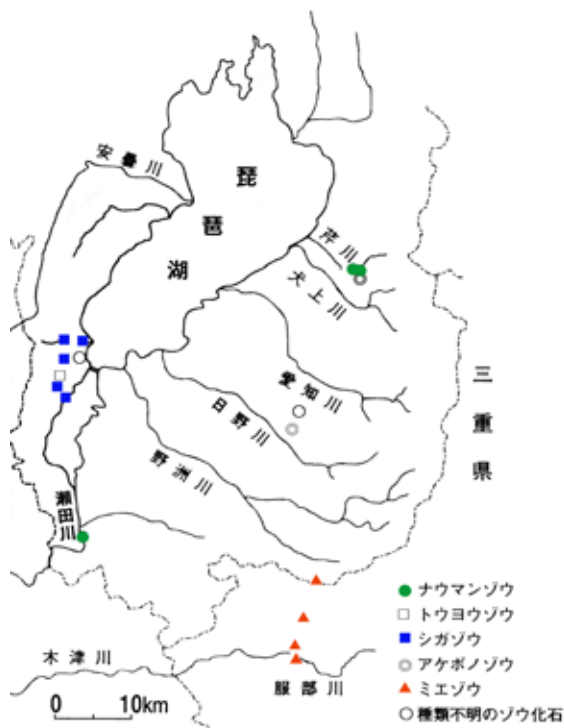
それは、琵琶湖の歴史が400万年以上もあって、その間の地層が残っているからです。日本のゾウ化石は、時代とともに種類が移り変わっていきますが、その移り変わるゾウ化石が地層の中に残されているのです（図1）。



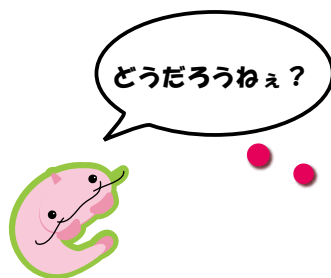
【写真2】中国での研究のようす

高橋学芸員の 研究内容は？

琵琶湖のまわりも含めて日本列島で発見されている大型の哺乳類化石の起源と移り変わりを調べています。特に日本列島でたくさん発見されるゾウやシカの化石を中心に研究しています。これらの起源は、アジア大陸にあるので、アジアの国々にもいって調べたりもします（写真2）。最近では旧石器時代の人の活動と自然環境との関係性についても調べています。



【図1】琵琶湖のまわりのゾウ化石



びわ湖の おいたち展示室の ゾウ展示について

実物はとても大きいんだよ！みんなも見に来てね！



【写真1】コウガゾウの復元骨格



【写真2】アケボノゾウの復元



【写真3】野洲川から発見された足跡化石

◎ 展示室にも大きなゾウ化石がありますね。

「びわ湖のおいたち展示室」にある大型のゾウの骨格復元は、コウガゾウのものです（写真1）。中国の黄河（こうが）の支流の川から発見された標本を中国科学院にお願いして、かたどりしてもらって復元したものです。このゾウが日本列島に渡ってきて、ミエゾウというゾウになりました。

◎ 森の中にもゾウが！

大型のゾウの骨格復元を過ぎると、今度は森の中に親子のゾウがいます（写真2）。これは、1990年に琵琶湖の東にある愛知川の上流で発見された化石林の調査結果をもとに、復元した森とそこにすむアケボノゾウの展示です。約180万年前のものです。しばらく止まって見ていると、空の色が変わったりして楽しいですよ。

◎ ゾウの化石は、歯や骨しかないの？

琵琶湖のまわりからは、足跡化石もたくさん発見されています。特に1988年に野洲川の河原で発見されたゾウとシカの足跡化石（写真3）は、日本で話題となりました。展示室では、そのかたどりで発見当時の様子を再現しています。

◎ ゾウ以外にはどんな動物がいたの？

シカやウシの化石もでてきます。展示室の「コレクションギャラリー」で、それらの化石をみることができます。

うみっこ トピックス

専門学芸員 おおつかたいすけ 大塚泰介 (企画展示主担当)

琵琶湖博物館第 20 回企画展示

「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」

ニゴロー、これまでをふりかえる

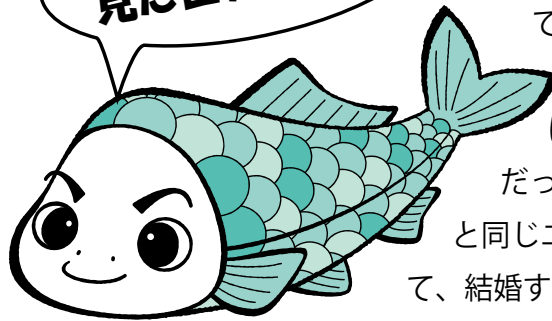
ぼくはニゴロー。田んぼで生まれたニゴロボナだよ。今年で3歳になったよ。3歳といえば、人間ならまだまだ子どもだけど、ぼくはもうりっぱな大人さ。子どももいるんだよ。

ぼくは子どものころから暑さには強いんだ。ぼくが生まれた田んぼは、6月の晴れた日には、水温が40℃近くになることもあったけど、へっちゃらだったよ。田んぼは、ミジンコやユスリカの幼虫など、おいしい食べものがたくさんあって、いいところだったなあ。

でもある日、急に水がなくなってきて、田んぼから追い出されちゃったんだ。それは、「中干し」といって、人間がイネを強く育てるためにしたんだって。その後は、水路から川へ、そして琵琶湖の沖合に出るまで、コサギや人間の子どもたち、あるいはやブルーギルなどに次々とおそわれて、たいへんだったよ。

次の年の春、ぼくは田んぼへ帰ってきた。田んぼは水路よりもずっと高いところにあって、とてもおぼれそうになかった。だけど階段みたいに田んぼま

フナの目から見た世界を体験



で上がっていける水路があったので、それをのぼって田んぼに入ることができたんだよ。ところが、田んぼで出会って仲良くなった女の子は「ギンブナ」という、ぼくとは別の種類のフナだったんだ。次の春には、ぼくと同じニゴロボナの女の子と出会う、結婚することができたんだけどね。

今年の春、琵琶湖から田んぼへ向かう途中でヨシ帯に立ち寄ったら、とてもこわい目にあったんだよ。



魚のゆりかご水田へと魚道をジャンプするフナ (場所:野洲市)

「何があったか？」は、ぼくの口からはこわくてとても言えないので、企画展示「ニゴローの大冒険～フナから見た田んぼの生き物のにぎわい～」で体験してね。待ってるよ！

※ニゴローと虫たちのイラスト：株式会社日展



第 25 回水族企画展示 「ぼくらは田んぼの合唱団—滋賀にすむカエルたち—」 同時開催